

2014年1月6日

報道関係各位

一般社団法人日本少額短期保険協会  
東京都中央区八丁堀三丁目12番8号  
八丁堀SFビル2階  
会長 榎本重秋

## 日本少額短期保険協会 2014年 年頭所感

一般社団法人日本少額短期保険協会（東京都中央区八丁堀）会長榎本重秋は、本日次のとおり年頭所感を発表いたします。

2014年の新春を迎え謹んでお慶びを申し上げます。

昨年は、新政権下での経済政策により景気回復の兆しを感じられ、2020年夏季オリンピックの東京開催が決定するなど、明るい話題を目にする機会も多い一年でした。一方で、国内外問わず自然災害が各地で発生し、罹災された多くの皆様には、一日も早く通常の生活を取り戻すことが出来るよう心より願っております。また、金融業界においては、反社会的勢力についての対応が社会問題となり、消費者に信頼される保険の在り方を考える一年となりました。私たちの業界も一丸となり体制のさらなる整備や、コンプライアンスの更なる強化を図り、保険業者としての責任を全うしてまいります。

当業界の概況を振り返りますと、2013年は、新規登録の事業者は4社を数え75社となりました。本年も新規参入が見込まれており、継続的な拡大が期待されます。決算の概況においては、少額短期保険が誕生して以来、高い成長を維持しており、2012年度の事業成績は、契約件数が合計537万件、収入保険料は529億円となり、「500万人」「500億円」の大台を突破しました。種目別では、家財系は契約件数・収入保険料ともに堅調に推移し、業界の市場規模を牽引しています。生保系については、各社の販売チャネルの多様化に伴い収入保険料ベースで全体の13%超を占めるまでに拡大しました。ペット保険の分野では、契約件数、収入保険料ともに2桁に近い成長を示しています。各社の経営状況は全体の2/3以上の会社が黒字転換し財務状況の安定化が進みました。少額短期保険がより一層皆様に安心をご提供できる体制基盤が整ってきているといえます。また、商品群に目を向けますと、孤独死や少子高齢化といった世相を反映した商品が数多く展開され、消費者と時代のニーズに添ってまいりました。

昨年も積極的な広報活動を継続し、業界の認知度の向上に努めてまいりました。2011年より毎年発行し、昨年で3回目となる「少額短期保険ガイドブック」の制作や、業界紙の皆様を中心とした説明会を開催し、業界動向を幅広くお伝えしてきました。また昨年は、若い世代の方に対しても「保険」の社会的意義を知ってもらうべく啓蒙活動に注力し、青少年向けの教材冊子「みらいの保険を描いてみよう」を制作したほか、インターンシップ生の受け入れなど、従来より幅広く少額短期保険をPRしてまいりました。「少額短期保険」「ミニ保険」という名称が年々着実に浸透し、消費者の皆様と距離が近くなってきていることを実感しております。本

年も引き続き、少額短期保険の魅力を伝えるだけでなく、消費者目線に立った広報活動を精力的に展開してまいります。

昨年6月に閉会した金融審議会ワーキンググループでは、保険募集と商品・サービスに係る多くのテーマが討議され、保険の「変化」を予感させる一年となりました。中でも「現物給付型保険」や「不妊治療保険」についてはメディアの関心も高く、多様化する消費者のライフスタイルに適合した新たな制度の創設を見据え、当業界においても迅速な対応ができるよう取り組んでまいります。また、少額短期保険がより消費者のニーズに近づけるよう、各種の規制緩和の実現に向けて、具体的な提案を行ってまいります。

コンピュータ試験化の導入から2年を迎える募集人試験は、安定した稼働をしており、本年は更なる利便性の向上を追求いたします。また、現在延べ13万人を超える募集人のスキル向上が図れるようコンプライアンスを始めとする教育にも注力し、消費者の要望に高いレベルで応えられる体制づくりを目指します。

私たちの業界は9年目を迎えます。順調に成長している業界だからこそ、原点回帰を忘れず「相互扶助の精神」と「保険の役割」を認識し、さらなる飛躍の年になるよう各種課題に取り組んでまいります。これからも保険業界のイノベーターとして「新しい時代の新しい保険」を提供できるよう、努力する所存です。

皆様のご理解とご支援をお願いするとともに、皆様のご多幸をお祈りして年頭のご挨拶とさせていただきます。

以 上

＜本件に関するお問い合わせ＞

日本少額短期保険協会：（杉本／佐藤）

TEL：03-6222-4422 FAX：03-3297-0755 E-mail：[info@shougakutanki.org](mailto:info@shougakutanki.org)